

## 令和7年度 第1回 運営推進会議議事録

- 日 時：令和7年5月25日(火) 17:30 ～ 18:00
- 場 所：篠原事業所2階 会議室
- 出席者：甲斐市職員、新居区区长、新居区民生児童委員、あすか在宅クリニック、健康科学大学、利用者様家族、当法人職員、しらゆり看護小規模多機能型居宅介護事業所職員（計13名）

議事事項	<p>1) 現状報告（別紙1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①利用者の状況について</li> <li>②サービスの内訳について</li> <li>③事例報告</li> <li>④活動の様子</li> </ul> <p>2.) その他</p>																										
議事内容	<p>議事</p> <p>1.) 現状報告</p> <p>①利用者の状況について</p> <p>利用者数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">月</td> <td style="width: 25%;">3月</td> <td style="width: 25%;">4月</td> <td style="width: 35%;">5月(5/21時点)</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>17人</td> <td>19人</td> <td>17人</td> </tr> </table> <p>・新規相談は随時あり。4月に1名看多機の中での看取りを行った。また、1名はがん末期の方で、看多機へ通うことが厳しくなったため自宅での看取りを見据えて在宅サービスへの移行となった。</p> <p>（質問）一人は看多機で看取りをしているが、何故もう一人は自宅での看取りの方向になったのか教えていただきたい。</p> <p>（返答）家族が最後は自宅で看取りたいという希望があり、訪問看護が医療で入る形で移行した。金銭面も移行した方が安くなり、利用者側に利益となるのである。</p> <p>介護度（R7年4月分）</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">介護度</td> <td style="width: 15%;">要介護1</td> <td style="width: 15%;">要介護2</td> <td style="width: 15%;">要介護3</td> <td style="width: 15%;">要介護4</td> <td style="width: 15%;">要介護5</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2人</td> <td>5人</td> <td>2人</td> <td>9人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11%</td> <td>26%</td> <td>11%</td> <td>47%</td> <td>5%</td> </tr> </table> <p>平均介護度：R7年2月：3.3      R7年4月：3.1</p> <p>・要介護1の方が1名開始となり平均介護度は下がったが、要介護3以上の方が63%と重度の方が多い状況。</p>	月	3月	4月	5月(5/21時点)	利用者数	17人	19人	17人	介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	人数	2人	5人	2人	9人	1人		11%	26%	11%	47%	5%
月	3月	4月	5月(5/21時点)																								
利用者数	17人	19人	17人																								
介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5																						
人数	2人	5人	2人	9人	1人																						
	11%	26%	11%	47%	5%																						

医療依存度について

痰の吸引：2名 胃瘻：2名 在宅酸素：1名

膀胱留置カテーテル：2名 排便管理：5名

- ・常時、医療依存度の高い方が利用されており、きめ細やかなサービス提供を看護師が中心となり行い、介助方法については、セラピストに相談し助言をもらった上で注意点などを介護職と情報共有しながら行っている。

(質問) 在宅酸素の濃縮器は、基本一ヶ所に納める事になっていると思うが、どうしているのか？

(返答) 業者と話し合いをして、濃縮器は自宅と事業所の2か所に置いていただいている。利用者の生活状況を踏まえて必要性を伝えた。

②サービスの内訳について

		2月	4月
通い		304回/月	356回/月
泊まり		136回/月	189回/月
訪問	介護	204回/月	239回/月
	看護	32回/月	35回/月

- ・利用者数の微増に伴い通い・泊まり・訪問介護の回数が増加。利用する場合、複数のサービスを組み合わせ、在宅での生活を維持したい利用者様とご家族が多い。

また、ゴールデンウィークに緊急ショートを受け入れた。介護者が骨折し入院となったケースである。依頼があった翌日より受け入れた。

③事例報告

・Aさん：75歳 女性 病名：肺がん末期

介護者は夫で、一人で介護をされていた。

Aさんは、徐々にベッド上で過ごすことが多くなり、色々な介護が増える中でご主人の疲労が見られるようになってきた。在宅医の診療にて、予後1ヶ月程度と診断された頃、当事業所の利用が開始となった。

介護疲労が蓄積されていたため、看多機の泊りを続けて利用。御主人は、ほぼ毎日事業所に来所され、Aさんとの時間を過ごされていた。また、月に数回週末に長男様も面会に来られて家族で過ごす時間を大切にされていた。

食べられるものは少量で限られており、Aさんが食べやすいものを提供するようにした。また、オムツではなくトイレで排尿をしたいAさんの意向を大切に、2人介助でポータブルトイレへ移るなど行っていた。

Aさんは「家に帰りたい」という希望があり、Aさんの体力やご主人の介護状況を考え、日中に数時間だったが自宅で過ごす日を作った。

亡くなられる数日前には「夜は不安で眠れない」という本人の気持ちに職員が寄り添いAさんの部屋で事務仕事をするなど、可能な限り一緒に過ごす時間を作っていった。

「本人・家族の思いに寄り添う」という事業所の目標の元に、どうしたらできるかを考えて職員一人一人が関わった中での看取りだった。本人の思いをどう叶えるかを悩むこ

	<p>ともあったが、些細な情報も職員間で共有し多職種での丁寧な支援を心掛けて行い、職員同士も相談しやすいようにした。</p> <p>「看取り」の経験値は介護職員間で差もあるので、職員の不安や疑問は看護師が中心に職員に関わることで、不安を減らして本人に関われたと思っている。</p> <p>今回の看取りを通して、自宅での看取りが不安でも入院せずに当事業所を利用する事で、本人と家族が穏やかに最期を過ごせる支援ができると分かった。</p> <p>今後も寄り添うことを大切に丁寧な関りをしていきたい。</p> <p>訪問看護は、医療保険で関わっていた。</p> <p>(質問) 看取りの経験値の差があるとあるが、どういう事か教えてほしい。</p> <p>(返答) 看取りを経験したことがない職員がいるため、その都度状態を説明して一緒にケアを行いながら伝えていった</p> <p>(意見) 在宅の時に関わらせていた時は、表情もあまりなく過ごされていた。ここの事業所を利用して家族、本人の心情の変化があった。本人に寄り添った結果、抗がん剤も徐々に減らす事ができた。利用して表情も出て来て良かったと思う。</p> <p>(質問) 一つ、最期になり水分を受け入れない体に点滴をしても本人が大変と思うのでその辺りもどうしていたのか。</p> <p>(返答) 往診の先生のお考えが、点滴など無理にせず本人が苦しまないように症状を緩和する医療を提供するというもの。そのため穏やかに最期まで過ごされていた。</p> <p>④ 活動の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月に土作りから始めた。利用者様は、農業経験が豊富な方もいて、助言をいただきながら一緒に行なった。4月に植えたミニトマトは実をつけている。</li> </ul> <p>同じ時期に植えたきゅうりも実がなった。フロアから庭に出て畑の様子を見ながら散歩ができるようになっている。外で日光浴をする日もある。</p> <p>2) その他</p> <p>(意見) 母が、自分の出身地の施設に入所している。入所当初は表情があまりなかったけど、近所の知り合いの方々がいて、話もしているようだ。</p> <p>面会は1回20分で家族が順番でしている。顔つきが優しくなっている。</p> <p>地元や知り合いがいることが大切だと感じる。</p>
<p>決議事項</p>	
<p>課題事項</p>	
<p>備考</p>	<p>次回会議：R7年7月22日(火)17:30～</p> <p>場所：しらゆり看護小規模多機能型居宅介護事業所</p>